

景気動向調査

景気回復の足取り重く 一部改善傾向も、全体では厳しい結果

令和7年4～6月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和7年4～6月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率58.5%

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合)－(減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲17.4ポイントで前回(R7年1月～3月)より▲3.0ポイント増加しました。サービス業前回15.4ポイントから▲33.3ポイント増加しました。

全産業売上高の推移：前回▲11.5ポイント(R7年1月～3月)から▲1.2ポイント減少しました。

製造業はマイナスから0へと改善を見せましたが、サービス業は大幅に悪化しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲5.1ポイント(R7年1月～3月)から▲4.6ポイント増加しました。

建設業が14.0ポイント改善傾向を示しました。

全産業採算の動向：前回▲16.8ポイント(R7年1月～3月)から▲5.8ポイント増加しました。

建設業が12.1ポイント改善傾向を示しました。

全産業雇用人員の動向：前回2.7ポイント(R7年1月～3月)から▲9.2ポイント増加しました。

全業種で人手不足傾向を示しました。

表1 業種別業況判断の動向

